

# 絵との関わりを深める鑑賞指導

—第5学年題材「好きな絵をもっと楽しんじゃおう！」の実践から—

阿比留 時彦

## 1. これまでの取り組みから

鑑賞教育を中心に据え、中学年以上を対象に取り組み始めて3年になる。まず始めに、これまでの取り組みの概要について述べたい。

第1年次<sup>(1)</sup>では、主に絵画を1枚ずつ取り上げ、自由に鑑賞する時間を設定した。選定にあたり4つの視点を意識して取り組んだ。

○子供が絵をもとに、そこから新たな想像を広げ、話し合えるような絵画

(画家例：クレー、カンディンスキー、シャガール)

○子供の創造的な技能を引き出すような絵画(例：ポロック、ピカソ、マグリット)

○身近な題材(自然や生活物など)を取り上げた絵画(例：谷内六郎、ゴッホ、雪舟)

○一般的な技法を学ぶための絵画(例：ダビンチ、棟方志功、スーラ、)

どのような絵であっても4つの観点が重なりをもって入り込んでいる。子どもたちの見方は多様であることが望ましいが、指導者としては観点を明確にした指導を心がけてきた。

授業形態としては、1枚の絵をゆっくり見る鑑賞のみの授業、題材における表現活動の導入的な扱いとしての授業、活動中やまとめ時の表現の広がりを知る授業など、できるだけ柔軟な位置づけを試みた。

2年次では、1年次に準じた。その中であって、作家の生き方に触れる授業展開を試みた。<sup>(2)</sup>20世紀を代表する画家ピカソの、その時代時代に変遷した絵をパズル遊びを絡めながら取り上げ、自由な鑑賞をした後に、絵の中に見るピカソの気持ちを1枚ずつ追う展開を試みた。

今年度、これまでの2年間をふりかえり、指導者の選定をもとにした鑑賞の授業展開から子供自らが選定した絵をもとに展開を試みた。指導者がねらいに即した絵をタイムリーに見せ、子供相互や教師との話し合いの共有はそれなりの意義がある。しかしその一方で、授業を仕組む指導者から提示される鑑賞だけでは、どこか物足りなさを感じてきた。確かに内容的な深まりや広がりは見られるが、子供一人一人に焦点を当てると、見せる・見る学習からもっと子供の活動的な展開を図りたいと考えるようになった。

そこで、子供たちそれぞれが好きな絵(広く写真やイラストも含む)を持ち寄ることからスタートする展開を試みた。自分が好きな絵を持ち寄り、表現活動と結びついた展開を図ることで、作品をより見つめたり自由な見方を意識したりするきっかけとなるのではないかと考えてみた。

## 2. 授業の実際 ～第5学年題材「好きな絵をもっと楽しんじゃおう！」～

### (1) 題材について

子どもたち一人一人が作品そのものに意識的に接する機会を持ち、作品に親しみ、鑑賞する楽しさ・面白さへとつなげるために、本題材を設定した。好きな造形作品を絵はがき、新聞・雑誌の切りぬき、コピー等から収集し、それをもとに、切る・貼る・周りを飾る等の再構成を行い、絵に働きかけることで、より楽しく絵と接する機会を持つことができると考えた。

本学級の子どもたちは、友達相互の作品を見合うことも表現することも進んで学習してきた。またこれまでにいろいろな作家の作品を鑑賞したり表現と結びついた学習を楽しんだりしている。

本題材ではこれまでに学習してきた作品をもとにした教師自作の作品を見ることをきっかけとし、子どもたち自らが収集を行い、分解・合成への働きかけを通して作品そのものにもっと親しむことができるものと考えてみた。

(2) 指導目標

- 1 自分の気に入る作品を見つけるようにする。
- 2 分解・合成・飾り付け等の構成表現に、自分なりの考えや工夫を生かすようにする。
- 3 友達の活動のよさを認め合うようにする。

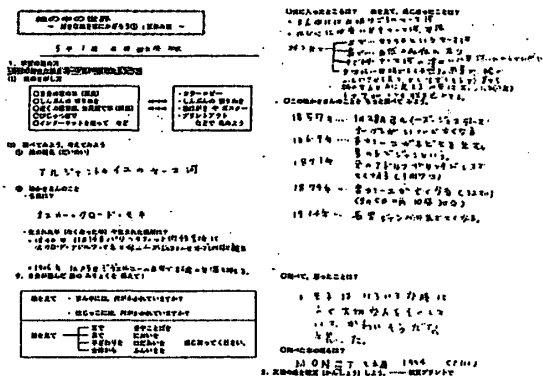
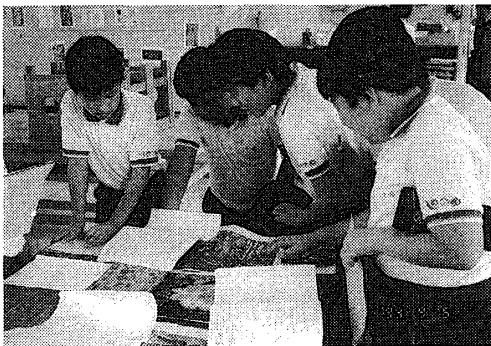
(3) 指導内容と計画 ..... 8時間 (本時 第一次 第1時)

- 第一次 題材のオリエンテーション ..... 1時間
- 第二次 表現活動 (鑑賞活動を取り入れつつ) ..... 6時間
- 第三次 作品鑑賞会 ..... 1時間

(4) 活動の主な流れ

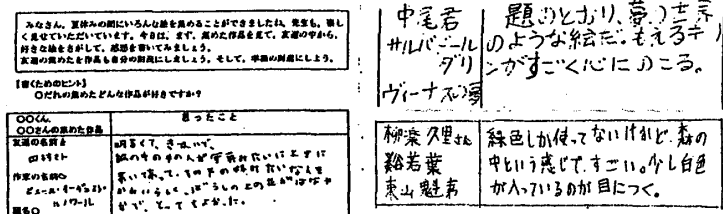
① 題材のオリエンテーション

夏休みに入る前に、好きな絵や写真などを収集し、作者のことを調べてみることを課題とした。夏休み明けには、集めた絵をもとに新たな学習を展開することを伝えておいた。また、収集方法や調べ学習を一人で行えるようにするために、具体的な手立てとしてワークシートを活用した。



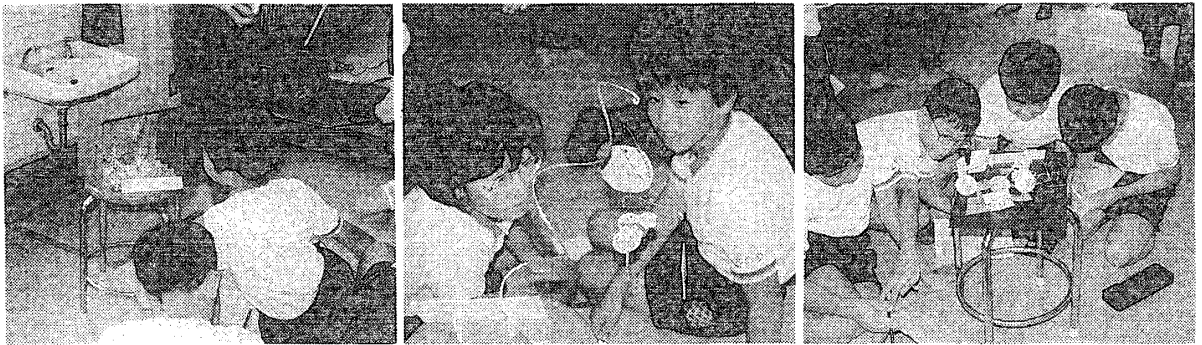
② 収集した作品鑑賞会

子供たちの収集した作品は多種多様であった。早速、集めた作品の鑑賞会を行った。自他の作品の違い、同じ作家の作品や同じ作家の同じテーマや題名であっても違う作品を目の当たりにしたとき、子供たちの驚きの声と表現の広がりじっと見入る姿があった。



### ③ 教師作品の鑑賞会

各自が収集した絵をもとに、新たな題材を展開するためのヒントを見本として示すことにした。初めての題材であるため、子供たちにとって表現方法に戸惑いが生じることを考慮し、表現方法としてのきっかけを提供することをねらいとした。見せる作品に影響されやすいことを考慮し、表現形式の違いを意識した作品を10点ほど提示した。



### ④ 表現活動展開

子供たちには6時間の時間設定の中で計画することを伝えた。活動方法については個々に委ねたので、グループで共同製作を展開する姿も見られた。活動中には、材料となる作品を交換する姿も頻繁に見られた。



### ⑤ 作品鑑賞会

できあがった作品をもとに改めて友達作品の鑑賞会を持った。じっくりと眺め、覗き込んだり、手にとって遊ぶ姿などが見られた。



【書くためのヒント】

- ・作品の全体から見たことは？
- ・顔や写具の生かし方（わざや工夫）から見たことは？
- ・どんなお話を聞かなくてきそうですか？

これらの中から、ヒントがあれば書いてみてね。

名前	感想
西くん	怖いイメージのカイコツ
カイコツ	ここの酒やなべをつけて染
...	しい雲に雲身させていると
...	ころかじり。

西くん	五体節の... 大人... 箱をひたりはリッけの... 題名の通り、とび出した感じがあった。...
「とび出し館」の美術館	うらから見ても、... エキがある。という感じ、おどろき、という感じでした。はてでも怪しい。

### 3. 考 察 ～題材終了後のアンケート調査を含む～

#### (1) 題材のオリエンテーションをもとにした夏休み課題学習

◇夏休み中の調べ活動はどうでしたか。【学級人数34名】

面白かった19名(56%)      どちらでもない11名(32%)      面白くなかった4名(12%)

##### 【面白かった主な理由】

- ・色々な絵を収集する楽しさ    ・よく知っている作者の絵でも新発見    ・画家の生涯
- ・心の中に残る絵のよさ    ・いろんな絵を見て、今度絵を描くときには…と勉強に

##### 【どちらでもない】

- ・調べたけれどあまりいいもの（好きな絵、ユーモアのある絵など）が集まらなかった
- ・勉強にはなったが知らない作者が描いていたので想像がつかなかった

##### 【面白くなかった】

- ・絵とかに興味がない    ・家にも図書館などにもいい資料がなく時間がかかり、本が大きくて持ち歩きが大変
- ・カラーコピーがいやだった（面倒くさかった）

面白くなかったと答えた子供には、身の回りに適当な調べ学習の環境が整っていなかったことが分かる。表現と結びついた題材のため、画集など大きな本からのカラーコピーの手間などがさらに興味付けを弱めたようだ。普段から新聞や雑誌の切り抜きとファイリングの計画的な習慣を培うことも考えられる。

また画集から選ぶとした子供には、幅広いジャンルから集めてよいことを伝えきれていない。収集作品についてどの辺りまでをよしとするかについて指導者としての迷いがあったこともあり、限られた範囲内の収集活動として現れたのだろう。芸術作品といわれる絵画・写真から、中学校で扱われるようになるイラスト、漫画まで幅広い子供の興味を引き出す多様性を念頭に入れた働きかけが必要になるだろう。

#### (2) 収集作品鑑賞会

さまざまなジャンルの絵や写真が集まったことで子供たちの興味付けは強かった。多くの感想にはいろんな絵をじっくり見ることができた喜びが書かれている。また、作者調べをしたことにより、興味がいっそう深まった子供が多くいた。自らが集めた絵に対する思い入れをもとに子供同士の話し合いや深め合いが生かされていた結果と受け取めている。

#### (3) 教師作品の鑑賞会

参考作品を作るにあたり、配慮したことが2点ある。

一つは、これまでの学習で鑑賞作品として取り上げたものを主としたことである。

例えばピカソ「泣く女」やクレー「幻想喜歌劇船乗りから闘いの場面」カンデンスキーの「コンポジション」など、学習で取り上げた作品を用い、画家の思いや作品の物語性を作品づくりの創意の中に生かすよう努めた。見ていく課程でそのことにも触れ、参考作品の感想を交流した。二つには一つ一つの作品に一口コメントを添えたことである。何となく見て素通りするのではなく、視点を提供することで、考えながら見るきっかけをつくってみた。子供たちは作品を見てはコメントにも目を通し、改めて作品を眺め、話し合う様子が見られた。

これら二つの留意点から、題材名の意味を自分なりに考え、理解しようとしたり、画家の思いも創作活動に生かすとよいことにも気づいたりしたのではないかと考えている。

#### (4) 表現活動の展開

◇絵を飾ったり、絵を組み合わせたことはどうでしたか。

面白かった24名(71%) どちらともいえない9名(26%) 面白くなかった1名(3%)

【面白かった主な理由】

- ・共同製作による自分にはないアイデアの共有
- ・平面絵画を立体的にする形態と創意の面白さ
- ・絵と絵の組み合わせや色つけ、装飾の工夫
- ・絵と色々な材料の組み合わせ
- ・自分のアイデアが自由に出せた
- ・もともなかった絵とは違う世界が創り出せた

【どちらともいえない主な理由】

- ・絵と材料との組み合わせの難しさ
- ・完成までいかなかった
- ・材料が不足していた
- ・アイデアが思いつきにくかった

【面白くない主な理由】

- ・絵に興味がない

一枚の絵を選ぶ、欲しい場所を切り取る、新たに位置を決め貼る、絵の周りを飾り付けるなどの活動は子供の絵を見る活動を促すものとなるのではないかという仮説をもとに本学習を計画した。見る学習としての鑑賞が表現と結びつくとき、子供たちのより自由な発想が絵との関わりを深め、絵に対する新たな気づきや発見を促すのではないだろうか。子供たちの感想にも概ね予想していた反応が返ってきた。しかし、面白くないと答えた子供は絵に興味がないと割り切って答えた子供であり、関わりと見通しを持った指導を継続する必要がある。

(5) 作品鑑賞会

◇友達の活動や飾り付けた作品を見て、どうでしたか。

面白かった31名(91%) 面白くなかった3名(9%)

【面白かった主な理由】

- ・自分と違う工夫が見られた
- ・みんないい絵を使っていた
- ・友達のいいところを次に生かせる
- ・好きな絵描きさんを見つけられた
- ・題名の付け方も学べた

【面白くなかった主な理由】

- ・なんとなく
- ・こわれた

友達の作品に対する評価は自分との違いや共通点があることのようなのだ。自分と同じように友達がそれぞれの思いを持って活動を展開することへの共感が生じているからとも言えるだろう。面白くなかった理由にこわれたことが挙げられている。作品保管には十二分な注意をしたがスペースのない中で残念な課題となっている。

4. まとめ ～鑑賞教育の多様性をもとめて～

本題材では子供たちの絵の収集から始め、絵をもとに自由に装飾・組み合わせを行う活動として設定してきた。また、造形表現することで鑑賞を深める自然な流れを生み出すことをねらった。

収集活動が出発であり一番大切な元をなすため、教師としてどのような支援ができるか、今後とも収集の仕方について考えていきたい。

ともあれ、見つめることを重視する鑑賞にも、遊びの要素を取り入れ、表現を通じた親しみ方が自然だろうと考え始めている。一人でも多くの子供が広く絵に対して興味を抱き、絵の中の作者の人生観や個性、ひいては作者の生き方の変遷にも思いを馳せる子供ができて欲しいと願っている。

生涯を通じて絵に親しむ素地を培えるように願ってやまない。

注(1) 平成9年度本校研究紀要p.221.～p.226.

注(2) 平成10年度本校研究紀要p.97.～p.102.